

Louichon, pp.7-24

「エレミアの嘆き再考（1）」高橋康浩 pp.25-36

「〈声〉はどこへ行った？— 近世儒学・国学における声の消失と回復 —」佐々木充, pp.1-26

「物語を語らぬ戯作者—戯作者登場の意味」広部俊也, pp.27-38

「『金閣寺』における〈概念〉と〈声〉の相克」先田進, pp.39-52

(2) 人文科学研究（新潟大学人文学部）第134輯「声とテキスト論研究プロジェクト特集」（平成26年3月刊行）

「『源氏物語』夕顔巻の「家鳩」—〈回想〉の仕掛け—」高橋早苗, pp.1-23

* 「平曲伝授におけることばと息継ぎ」鈴木孝庸, pp.25-43

* 「1940年代, 戦時下ソ連のラジオと前線における「声」」鈴木正美, pp.5-21

* 「スタニスラフスキーシステム再考」斎藤陽一, pp.23-39

19世紀学プロジェクト

研究代表者 松 本 彰

新潟大学コアステーション19世紀学研究所との連携の上、学際的な研究プロジェクトを進める。主眼となるのは19世紀に欧米、東アジア圏に成立した近代的学知の歴史的生成とその展開の諸相の検討である。人文的・教養的学知はいかなるしかたで形成されたのか、過去や異文化の学知といかなる形で関わったのか。その際の政治的背景やそのイデオロギー性も問題にし、総合的な歴史的分析を行う。

■業績

松本 彰

- 1) 「戦没者記念の比較史のために—ドイツ、アメリカ、ロシア、日本: 1813-2013, そして2014」『欧米の言語・社会・文化』20号, 1-17

桑原 聡

- 1) *Jenseits des Subjekts, jensets der Sprache*, Satoshi Kuwahara, Muenchen (Iudicium) in printing 2014.
- 2) *Die Idee der Kunstkammer als ein Modell fuer die Enzyklopaedistik des Novalis*, Satoshi Kuwahara, *Study of the 19th Century Scholarship*, No.7, pp.17-31, 2013年.

逸見龍生

- 1) 「形而上学の時間と哲学の時間——『百科全書』デイドロ執筆項目「靈魂」の「生成論的解釈学の試み」『日仏哲学研究』第18号, 2013年9月, pp.16-30。
- 2) 「時間・知識・経験——初期デイドロ思想の形成におけるベーコン主義医学史の位置——」『思想』(岩波書店) 2013年12月号, pp.158-186。
- 3) Tatsuo HEMMI, Alexandre Guilbaud et al. : « Entrer dans la forteresse » : pour une édition numérique collaborative et critique de l'Encyclopédie (projet ENCCRE), *Recherches sur Diderot et l'Encyclopédie*, 43, 2013, pp. 225-264.
- 4) 逸見龍生・王寺賢太・田口卓臣「今, デイドロを読むために」, 『思想』(岩波書店) 2013年12月号, pp.6-48。
- 5) 「文人たちの結社」『図書』(岩波書店), No. 780, 2014年2月, pp.2-7。

■シンポジウム・研究会開催

1. 日時 11月30日(土) 15時30分~17時30分

場所 新潟大学五十嵐キャンパス 総合教育研究棟1F 大会議室

報告者 唐権 華東師範大学副教授

報告タイトル

「栽種」の道—『吾妻鏡(ウチジン)』と明治日本の開化セクソロジー

2. 日時 12月2日(月)16時30分～
会場 新潟大学五十嵐キャンパス 総合教育研究棟1F 大会議室
第1報告 伊藤博明 埼玉大学教授
「イコノロジーの誕生——アビ・ヴァールブルク(1866-1929)と美術史の転換」
第2報告 根占献一 学習院女子大学教授
「パドヴァ大学とレーゲンスブルク対話間のガスパロ・コンタリーニ(1483-1542)」

3. 日時 12月6日(金)16時30分～18時30分
場所 新潟大学五十嵐キャンパス 総合教育研究棟1F 大会議室
講演者 安村典子 元金沢大学大学院人間社会環境 研究科教授
演題 「ゼウスの屋敷に置かれた二つの瓶」の話をめぐって——『イリアス』第24歌に語られる死生観

4. 日時：3月17日(月)15時30分～17時30分
場所：総合教育研究棟A624教室
報告者 木村直恵 学習院女子大学准教授
報告タイトル 「明治期日本における「社会」概念の歴史的編成——「明六社」と Society (ソサエチ)を軸に」

5. 日時：2月22日(土)15時～17時30分
場所：総合教育研究棟B351教室
講演者：佐々木充
報告タイトル「文体(スタイル)とヴィジョン——小林秀雄, シェイクスピア, イェイツ, ユング, 宮崎駿——」(新潟大学人文学部メディア・表現文化論(表現文化論分野)と共催)

6. 「〈声〉とテキスト論研究センター」との共催連続講演会 越境する思想・異郷者の詩 —— 声と知のトランスレーションへ

日時 2014年3月10日(月)

場所 新潟大学総合教育研究棟D棟1階 大会議室

受付 12時30分

第1セッション(13時-14時30分)

司会 高木 裕(新潟大学人文学部教授)

講演者 ピエール・ラフォルグ Pierre Laforgue

(ボルドー第3大学教授・フランス)

講演題

La langue, la voix, la poésie :poétique et politique de la parole dans le Cahier d'un retour au pays natal d'Aimé Césaire (言語, 声, ポエジー — エメ・セゼールの『帰郷者ノート』におけるパロールの詩学と政治 —)

発言言語: フランス語

(休憩)

第2セッション(15時-16時30分)

司会 逸見 龍生(新潟大学人文学部准教授)

講演者 アン・トムソン Ann Thomson (欧州大学院教授・イタリア)

講演題 What is intellectual history? New approaches and methods(精神史とは何か — 新たなアプローチと方法 —) 発言言語: 英語

第1セッション, 第2セッションともに, 通訳は, 逸見龍生

7. 日時 3月13日(木) 16時~18時

場所 新潟大学五十嵐キャンパス 総合教育研究棟D-301

講師 ドイツ・ルール大学ボッフム東アジア学部講師

Kamila Szczepanska 氏

講演タイトル 「The Educational Reforms of the Second Abe Cabinet and the Shaping of Cultural Memory in Japan (第二次安倍政権の教育改革と日

本における文化的記憶の形成について)」

8. 「アタナシウス・キルヒャー Athanasius Kircher シンポジウム」

3月8日（土）午後1時30分から

場所：新潟大学総合教育研究棟A棟1階大会議室

司会 桑原聡（新潟大学人文学部教授）

報告 伊藤博明（埼玉大学教養学部教授）「キルヒャーとエジプトマニア」

坂本貴志（立教大学文学部教授）「イシスとキルヒャー」

前田良三（立教大学文学部教授）「キルヒャーと可視性のメディア」

桑原聡「キルヒャーとクンストカマー Kunstkammer」

9. 日時 3月27日（木）16時～18時

場所 新潟大学五十嵐キャンパス 総合教育研究棟D-301

講師 ドイツ・ケルン単科大学メディア学科 Katja Butt 教授講演

タイトル Bewegte Bauten -Umbaute Bewegung「流動化する建築物－構築物となるイメージ（空間・知覚・流動）」

■『19世紀学研究』第8号刊行

環東アジア地域のネットワークに関する 総合的研究

研究代表者 關 尾 史 郎

概要

本プロジェクトは、学系附置環東アジア研究センターと多くのメンバーが重複しており、プロジェクトの活動はセンターの活動として行なわれている。